



インスピレーションになるろ



長井ロータリークラブ



Weekly report

国際ロータリー会長 パリー・ラシン

長井ロータリークラブ会長	遠藤 伴明	第2800地区ガバナー	上林 直樹
幹事	那須 修	第6ブロックガバナー補佐	高橋 眞己
例会日	毎週火曜日 12:15~13:15	例会場	タスパークホテル TEL0238-88-1833
事務局	長井商工会議所内 TEL0238-83-2047	URL	http://www.nagai-rc.jp
E-mail	info@nagai-rc.jp	会報委員	(横澤寿彦 伊藤克也 村田 剛 中島 浩 土屋茂樹)

【1月・特別月間】職業奉仕月間

例会報告 No.19 (通算 第2772回) 2019年(平成31年)1月22日(火)号

次回例会(1月29日)

◎ゲスト卓話 例会場PMO:15
やまがた長井観光局
事務局長 丸山邦昭氏

次々例会(2月5日)

◎ゲスト卓話 例会場 PMO:15
働き方改革法ぬつについて
社会保険労務士法人 堀越事務所代表社員
所長 堀越俊一郎氏

前回例会の報告

(理事会風景) AM11:30



(ロータリーソング)



会長の時間(挨拶)

会長 遠藤伴明



(冒頭、前田昌信会員の病
気入院・退会報告が行われ
た。)

こんにちは、「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉を聞いたことがあると思います。よく野球の野村克也

元監督が試合後に使っていた言葉ですが、実は平戸藩、今の佐賀、長崎辺りになるかと思いますが、平戸藩の9代藩主の松浦静山が剣術の指南書の中に残した言葉です。勝負には運はつきもので負けると思ったのが運よく勝つこともありその時は謙虚に受け止め、その逆で力が上であっても負けることがありますその時は、運が悪かったと片づけるのではなく負けるには何か理由があり、それを突き止めてそれを次に生かすことが重要だと言っているわけですが、なぜ今日この言葉のことを話すかというと我々ロータリーはこの地域において仕事、職業を持っているわけで、その立場は経営者または責任のある立場の人間の集まりであるわけです。今の社会、経済状況を見ると日経平均株価なども下がっており決して良いとは言えない状況です。その中で日々決断をしなければならないことが沢山あるかと思えます。その時に求められるのはセンスだと言う人もいます。センスとは「物事の微妙な感じ、ある意味を悟る働き、勘」ということですが、皆さん時々ころころと職種が変わる店舗を見かけることがあるかと思えます。最初はラーメン屋だったのに1年後には別の業種のお店に変わっていて、また次の年にはまた変わっ

ている。これは何のマーケティングリサーチも行わずただ空き店舗があるから借りる。これはセンスがなくてただ不動産屋と内装屋を儲けさせているだけと言えます。我々はセンスを磨き事が上手く運んだ時には謙虚に受け止め失敗した時にはその経験を活かし次には失敗をしないという事が大切なことと思います。会員の卓話を聞くのも知らないことを知りセンスを磨くことに繋がると思います。今日は土屋会員の卓話です。楽しみに聞きセンスを磨きたいと思います。今日もよろしくお祈りします。

お祝い・MPHF 表彰（1月）

- OMP HF 4 – 横澤寿彦会員
 3 – 齋藤慎治会員 井上晴雄会員
 1 – 大山友規憲会員 高橋勇喜知会員
 齋藤圭央会員

皆さん、おめでとうございます。



幹事報告

幹事 那須 修



- 第13回理事会協議事項
 - ・2月プログラムについて
- 第6ブロックIM開催ご案内
 - 日時：4月28日（日）PM1 時開会点鐘
 - 会場：パレス松風
 - 基調講演：演題 「ロータリーから学ぶこと」
 - 講師国際ロータリー理事 石黒慶一 氏
- 南陽東RC30周年記念式典のご案内
 - 日時：2019年5月11日（土）PM2 時～
 - 会場：熊野大社證誠殿
- 長井青年会議所小関幸一理事長より新春賀詞交歓会
 参会に対するお礼状が届きました。

委員会報告

○プログラム委員会
 （大道寺信委員長）



2月5日（火） PM0：15 （理事会11：30）	タス 例会場	ゲスト卓話 社会保険労務士法人 堀越事務所代表社員 所長 堀越俊一郎 氏
2月12日（火）	休会	祝日（11日） 建国記念日による
2月19日（火） PM6：00	中央 会館	ファイヤーサイドミ ーティング
2月19日（火） PM6：00	タス 例会場	ゲスト卓話 日本アリカディアネッ トワーク 代表取締役 黒澤栄氏

○会報委員会
 （横澤寿彦委員長）

- HP改訂報告について
 - ・H29年度までの活動を追加掲載した。
 - ・週報バックナンバーの形式を変更した。



※ロータリーメモ

（PHF=ポール・ハリス・フェローの略）恒久基金以外の寄付、つまり年次基金、ポリオプラス、財団が承認した補助金への寄付の累計1,000ドル以上に達した方に送られる認証です。
 （MPHF=マルチプル・ポール・ハリス・フェローの略）1から8まであり、PHF後の累計2,000ドル～でMPHF 1、9,000ドル～でMPHF 8となります。

（認証レベルと認証品）

PHF	\$1,000～	認証状と襟ピン
MPHF 1	\$2,000～	襟ピン（サファイヤ1粒）
MPHF 2	\$3,000～	襟ピン（サファイヤ2粒）
MPHF 3	\$4,000～	襟ピン（サファイヤ3粒）
MPHF 4	\$5,000～	襟ピン（サファイヤ4粒）
MPHF 5	\$6,000～	襟ピン（サファイヤ5粒）
MPHF 6	\$7,000～	襟ピン（ルビー1粒）
MPHF 7	\$8,000～	襟ピン（ルビー2粒）
MPHF 8	\$9,000～	襟ピン（ルビー3粒）

MPHF 4
襟ピン



ニコニコ BOX

那須修幹事

- ・遠藤 伴明会長
土屋さん、卓話楽しみにしています。
- ・横澤寿彦会員
卓話お疲れ様です。
資料提出よろしくお祈いします。

BOX ありがとうございました。

本日金額： 8,000 円

累計金額： 152,500 円

(達成率 21.8%)

(会員卓話) 土屋茂樹会員

『印刷の歴史から』



◎印刷とは

文字、図、絵、写真などの原稿をもとに印刷版（→版）をつくり、印刷インキなどを塗布して紙などの被印刷物に押しつけ、機械的に複製すること。印刷は文書、絵画、写真などの平面的な画像を多数複製する手段であるが、現在ではその技術は多種多様となり、印刷とは何かを定義することは困難である。

◎歴史

ふつう印刷術は中国に始まったと考えられており、唐代(618 - 907)に始まったと思われるが、しかしそれ以前から印刷類似の方法が中国やオリエントで行われていた。

(活版印刷以前)

世界的に、年号のはっきりわかっているものでもっとも古いものは、770年(宝亀1)に印刷された日本の『百万塔陀羅尼(ひやくまんとうだらに)』である。当時何十万という大部数を印刷したとされている。

(活版印刷の発明)

西洋では1445年ごろドイツのマインツのヨハネス・グーテンベルクが活版術を発明した。活版印刷は火薬、羅針盤とともにルネサンス期の三大発明といわれています。発明後50年で1000軒を超える印刷所がヨーロッパにできたといわれています。

(日本への西洋式活版印刷の導入)

日本には次の3期に活版がもたらされた。第一は、文禄・慶長の役により朝鮮から持ち帰った銅活字を使い、第二は、遣欧少年使節に同行の神父が持ち帰った活字と印刷機でキリシタン版を刷ったときである。第三は、本木昌造がオランダ渡りの印刷機や活字によって1856年(安政3)にオランダ文典を刷ったときであります。

(印刷機の発達)

印刷機は、約350年間、本質的には変更はありませんでした。1800年にイギリスで鉄製の印刷機をつくった。この型の機械は、1850年(嘉永3)にオランダ政府から徳川12代将軍家慶に贈られました。1892年には自動的に紙を印刷機に入れる装置が発明された。さらに進展して、輪転機が発明され、フランスではマリノニ社製の輪転機が有名であり、これは1890年(明治23)日本が『官報』印刷のために最初に輸入した輪転機である。

(平版印刷の発明)

1970年代にはPS版の普及と自動処理機が一般的になり、文字印刷も盛んになった。オフセット輪転機は、大部数発行の雑誌や新聞の印刷に利用されている。

◎印刷がかいぐってきた文明・文化

(印刷がたどりついたところ)

印刷メディアの発展は、一言でいうと機械化がもたらしたものであった。時代が進むと、印刷は文字だけでなく絵ものせたい、カラー化したい、写真をのせたい、綺麗に見せたい等など、文化的な充実の欲望が増していった。印刷の企画デザインというのは非常に重視される時代になったのである。

印刷史から分かることは、社会や環境が変わる時にはメディアも変わることで、メディアは物質的な要求と文化的な要求を同時に満たす方向に進むということである。そのうち印刷以外のメディアが担うこと、印刷でしかできないこと、などを考えると、その見分けができるようになるのではないかと思います。

(ジャーナリズムとマスメディア)

産業革命がはじまると、印刷も、自身の物量を増すことによって、この圧倒的な数の情報を伝え、メディアとして発展していった。この過程で発展した印刷メディアの典型例として新聞があります。新聞は大衆化して「現実を伝える」マスコミュニケーションのツールとなりました。

(産業革命で印刷の量産化、多様化)

印刷関連産業に起きた具体的な革新、そして社会にもたらした変化があり、活版ではない印刷手法の開発、写真の発明・改良がされ、相次いで発見や技術革新が

続き、印刷は量産化され、並行して多様化が図られました。社会構造の変化はジャーナリズムを生み出し、近代の幕開けと共に印刷はメディアとしての機能をより研鑽して、情報の爆発を引き起こすことになったのである。

(大衆化していった出版物)

印刷分野が拡張していくことは、情報を流布するメディアとしての役割のほかに、文化という人類の共有財産の有形化（いわゆる印刷文化）や日常生活の充実といった役割を、印刷に与える結果になったのである。

(人間の感性に訴えるメディア)

印刷は、理性を司る活字というメディアだけでなく、感性をかき立てる写真というメディアを得たことで、より広範な情報の伝播という役割を担うことになったのである。

(記録材料としての紙)

印刷メディアにとって最も重要な記録媒体が紙であることは、言うまでもないことであります。紙の発明と普及がなければ、印刷メディアが今のように社会の中で大きな役割を得ることはなかった。

◎印刷の種類

(印刷の現状と将来)

現在はDTP（デスクトップ・パブリッシング）が主流になっている。パソコンが組版技術に大きな影響を与えた。データを多少整えれば組版体裁の整った印刷用の出力ができる。印刷法も、コンピューターにより高度に自動化され、管理されるようになってきている。



◎IT化は印刷業界にどんな影響を与えたか

IT化の影響は印刷業のプリプレス部門に顕著に現れていますが、現在のところ残念ですが、プラスよりマイナスの方が大きいように思われます。印刷業界ではプリプレス部門に留まらず全部門を対象にしてITの新しい技術を駆使してプラス面を最大にしようと努めております。

◎印刷業は、製造業ではない

「注目される広告」や「売れる書籍の表紙」のデザインを考える制作能力が、印刷業における一つの差別化ポイントとなっていることも考えれば、「製造業」とするには、やはり違和感あると思います。

◎紙と Web の間で揺れる印刷業

「印刷物に込めた情報を多くの人に広く発信したい」という思いは共通しています。「広く発信したい」というだけなら、印刷にこだわる必要はないのではないかもしれませんが。紙とインクを使わなくても情報発信できればいいのですから、電子出版は当然のこと、ブログなどソーシャルメディアでの書き込みでも構わない

はずです。これだけ情報通信技術が発達した現代社会においても、紙媒体の意義はなくなってはいません。情報を伝える目的、伝える情報の内容、伝える相手などにもよりますが、「媒体」というものに対する個々人の考え方、感じ方によるものが大きいのではないかと思います。

◎使命は、「印刷」ではなく「情報発信の支援」

今、印刷業を営む企業にとっては「印刷というソリューション」を顧客のニーズに合わせてカスタムデザインし、場合によっては印刷以外のソリューションを提案する」といったフレキシブルなサービス対応が不可欠になっています。印刷業はもはやサービス業へと進化しており、組織の使命は「情報発信の支援」へとシフトしていると思います。印刷業界は「その本来的な強みである印刷技術を売りにした総合的なコミュニケーションサービス業」へと向かっていかなければならないと思います。

◎当社の印刷

- ・一般印刷
ポスター、パンフレット、広報、会報、チラシ、DM、カタログ、会社案内、学校案内、入学案内、冊子、記念誌、封筒、名刺、帳票類、など
- ・オンデマンド印刷
1部からでも対応可能
- ・自費出版
自分の本をカタチにするお手伝い
- ・シール、ラベル、販促アイテム

- ・山形おきたま住宅総合館

- ・兼続本舗

- ・NAGAI ピーアール

- ・Kids Do (学習フリーペーパー)

- ・WEB 制作

- ・ワークショップ シルクスクリーン体験

- ・セミナー開催
「インターネット新時代の経営実践セミナー」
「ダイレクトリクルーティングで採用に勝つ！」

以上

出席報告

中島 浩委員長



- 本日の会員数26名、全出席数21名で出席率は80.77%です。
- 前々回(12月18日分)の出席率は、89.29%に確定します。